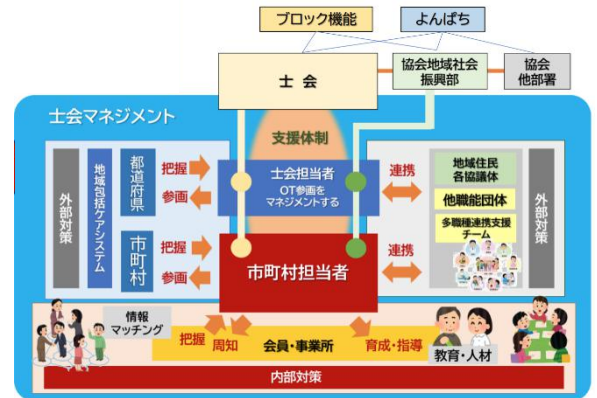


人々の活動・参加を支援し、地域共生社会の構築に寄与する作業療法

2024年度の第1回目となる地域事業支援会議が、7月20日(土)にオンラインで開催され、今回は初の試みとして、選任者と聴講者に加えて各士会から士会長（またはそれに準ずる代理の役職者）にも参加をいただきました。総勢200名近くの方が参加され、当士会からは、東川会長、市川さん（河北中央病院）、加藤さん（富来病院）が参加しました。

現在、多くの市町村では、介護職員やケアマネジャー、行政担当者といった支え手の不足により、自立支援や自助・互助の地域づくりが停滞しています。特に、作業療法士の役割や事業への適応に関する情報不足が大きな課題です。今年は第四次作業療法5か年戦略の2年目であり、地域社会振興部が担う重点活動項目として、「地域で暮らすすべての人々を対象として、人々の活動と参加を支援する」および「地域における人のつながりや人と社会のつながりを創り出す」ことが挙げられています。これにより、作業療法のニーズに応えることが求められています。市町村担当者配置事業は、士会マネジメント事業の大きな柱の一本です。今回の会議では、改めて作業療法の必要性を確認し、市町村配置事業の役割を明文化し、今後の活動展開を確認する機会となりました。



各事業の報告 全国の地域課題に作業療法で応える

1. 1724の市町村担当者配置事業について

2023年度は約25% → ※目標 2024年度50%, 2027年度80%
当事業は士会内のマネジメント力を高めるための土台となる組織戦略と考えています。

【明文化された内容】※「定義」→「役割に」言葉が変更
全国約1700の市町村それぞれにおいて特定の市町村を担当する会員であり、子供から高齢者まで、障がいのあるなしに関わらず、市町村のニーズに応えるべく様々な場面に作業療法士が専門職として参画しやすい環境をつくるために活動する者を指す。

【配置方法・具体的な役割・その他】

- ・ 士会の状況を踏まえて独自にマネジメントした結果、士会毎に決まる。
- ・ 「市町村担当者」が日本作業療法士協会市町村担当者配置事業で使用している名称であることが分かるよう、あるいは誤解がないような配慮をするために「市町村担当者（日本作業療法士協会市町村担当者配置事業）」を基本とする。

2. 士会マネジメント事業について

【地域支援事業参画のための士会マネジメント事業】

全国約1700の市町村へ作業療法を届けるための「地域支援事業への作業療法士参画を推進するための具体策集であるQ&A集を作成中です。

今後も、地域支援事業に関する士会活動のマネジメントについて、考え方や具体的な方法、実際の活動例を、全国で活動されている会員の皆様からの情報をもとに提示してまいります。さらに各士会活動の推進につなげていけるよう、情報の提供、共有のための協会の活動にご協力をお願いいたします。

【取り組み内容】

※調査事業と協力しアンケートの実施

※士会選任者と士会長との進捗状況の共有の場を設定

3. 地域づくりに資する作業療法士参画モデル事業について

作業療法士が参画することでの効果を示す目的である当事業について、2024年～2025年度で最大3事業の採択で募集を行った結果、21事業の応募がありました。本当にありがとうございます。採択にならなかった事例についても、ぜひ活用をしていくために士会マネジメント事業等で検討をしております。

編集後記

今回の地域事業支援会議も参加者200名を超える盛会な会議でした。昨年度に引き続き「市町村担当者配置事業」について各県の士会長や選任者と意見交換する時間が設けられました。担当者がどんな役割であり、どんな行動をするか明確にしておかないと受ける側が困ってしまうのではないかと意見が多数でした。三重県士会では役割・内容のチェックシートを作成して、担当者が何をすればいいか明確にすることで受け手側が困らないような工夫をしていました。当県士会でも担当者が困らないような仕組みを考え、皆さんに協力をお願いしていききたいと思います。 石川県士会 担当：加藤

2024年度 第2回地域事業支援会議 石川県士会版

作業で暮らしに彩りを

2024年度の第2回目となる地域事業支援会議が、10月5日(土)、6日(日)にハイブリッドで開催されました。総勢150名近くの方が参加される会議となり、当士会からは、東川会長や各支部長や担当理事ら、計6名が参加しました。

地域共生社会において作業療法士が活躍できる場の多様性を知り、活発な意見交換も行われた濃密な1.5日間でした。

山本会長からの挨拶に始まり、谷川常務理事から「協会理念と重点活動項目」、佐藤理事からは「最近の状況と介護予防ケアマネジメント」について発信がありました。その後、市町村担当者配置の速報や士会マネジメントにおける「地域支援事業参画のための士会マネジメントに関するQ&A」の紹介がありました。

2日目は地域事業支援課(運転と地域移動推進班・認知症対策班・スポーツ振興班)の各班長からの事業報告、重層的支援体制整備事業の取り組み紹介、地域づくりに資するOT参画モデル事業の紹介などがあり、包括的な視点での地域支援について考える機会となりました。

第3回目の地域事業支援会議は令和7年3月9日曜日の午前、オンラインの予定になっております。



各事業の報告

1. 全国約1700の市町村担当者配置事業について

モニタリング表の更新とご提出をありがとうございました。

【市町村担当者配置率】

2023年度は約28%

→ 2024年9月現在 66.7% (全国47都道府県、1154市町村に市町村担当者を配置)

※目標 2024年度50%, 2027年度80%

(石川県士会 9月現在32%)

各士会の選任者の皆様には、本務で多用の中、モニタリング表の更新をいただきました。配置が進んだ士会、様々な事情で配置に難渋されている士会、様々なご事情があるなか集計してくださり感謝申し上げます。引き続き配置の促進と配置された担当者の作業療法士が地域に作業療法を提供できる実働が次のステップになります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

2. 地域事業参画のための士会マネジメントモデル事業について

【士会マネジメントに関するQ&A】について
全国約1700の市町村へ作業療法を届けるための具体策集の第1弾を協会ホームページに掲載いたしました。最終的にAnserの部分を整理して、士会マネジメントの具体策のカタログとしてまとめる予定です。

【活用のポイント】

これまでのアンケート、グループワークで出されたよくある質問から検索できるようになっています。
ブロック機能を活用して具体的な情報を補い、士会及び市町村の実情に即した方法をご検討ください。

日本作業療法士協会HP

→ 会員向け情報 (協会からのお知らせNEW)

→ カテゴリ

→ 地域社会振興関連 → 地域包括ケアシステム関連

→ 地域社会振興部地域事業支援課【地域包括ケア推進班】

<https://www.jaot.or.jp/seikatukankyoku/chiihoukatu/>

3. OT参画実態調査

各市町村の「高齢者支援へのOTの参画状況」を明らかにするため、Google formにて調査を行います。昨年同様、士会事務局に調査依頼を行います。選任者の皆様には各士会事務局から問い合わせがあった際は、ご対応をよろしくお願いいたします。調査に関する質問窓口を準備しております。

編集後記

今回も盛りだくさんな内容の1.5日会議でした。「市町村担当者配置」について、担当者って何なのか、何をすればいいのか、どんな役割があるのか、具体的な説明が記載されている、【士会マネジメントQ&A】が作成されました。非常に分かりやすいQ&A集になっており、県内で市町村担当者配置ができていないOTさんへの説明に使用していきたいと思います。ぜひ、皆さんも一度目を通してみてください。 石川県士会 担当：加藤

News letter

一般社団法人 日本作業療法士協会

地域社会振興部 地域事業支援課 地域包括ケア推進班主催

2024年度 第3回 地域事業支援会議 石川県士会版

2025年3月
Vol.3

「私たちの地域は私たちの手で」

今年度を締めくくると第3回地域事業支援会議は、3月9日(日)午前にはオンラインにて開催されました。全国47都道府県より総勢160名超の方が参加されました。当士会からは、合歓垣副会長（芳珠記念病院）、市川金沢東支部長（公立河北中央病院）が出席しました。

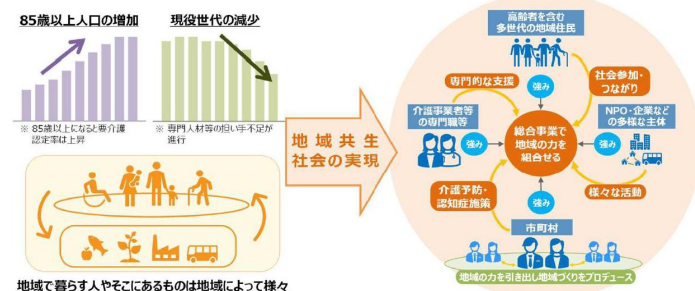
日本作業療法士協会(以下、協会)として重点を置く“地域における作業療法士(以下、OT)の役割”について新しい情報を含め確認し、グループワークでは出席者による意見交換が行われました。山本会長からは標題の「私たちの地域は私たちの手で」の通り、協会が目指す地域で活躍するOTの未来に向け、力強い挨拶をいただきました。

谷川常務理事からは、協会の2025年度重点活動項目にあがる地域共生社会5か年戦略関連として、地域で活躍できる人材育成への取り組みが加速されること、介護予防・日常生活支援総合事業ガイドライン改定の読み解きなどについて発信されました。また、佐藤理事からも“静かなる有事”である今の日本の現状に対する危機感を持ちながらも、あらためてOTが得意とする生活やその質のアセスメント、総合事業の多様性に対応しその適切な選択の支援が必要とされていることをお伝えいただきました。

各事業の報告

総合事業の充実にに向けた基本的な考え方

- 2025年以降、現役世代が減少し医療・介護専門職の確保が困難となる一方で、85歳以上高齢者は増加していく。また、こうした人口動態や地域資源は地域によって異なる。
- こうした中、高齢者の尊厳と自立した日常生活を地域で支えていくためには、市町村が中心となって、医療・介護専門職がより専門性を発揮しつつ、高齢者や多様な主体を含めた地域の力を組み合わせるという視点に立ち、地域をデザインしていくことが必要。
- 総合事業をこうした地域づくりの基盤と位置づけ、その充実に回することで高齢者が尊厳を保持し自立した日常生活を継続できるよう支援するための体制を構築する。



1. 各事業より事例集、マニュアル、手引き…続々公開！

令和7年度4月以降、協会ホームページにて『サービス・活動C(短期集中予防サービス)実践事例集～ADL・IADL・趣味活動編～』を公開予定です！

引き続き「医療から地域(在宅)移行」「短期集中サービス」に関する事例をお寄せいただき、事例集として関係内外へ発信できるよう事例集を作成中です。令和7年度は「医療から地域(在宅)移行」に関する事例集の作成を目指してまいります。

『保険事業と介護予防の一体的実施事業作業療法士参画マニュアル』が完成しました。一体的実施事業の概要から事業の進め方、OT参画事例まで、参画に向けた実践のための手順書ができました。

引き続き『士会マネジメントQ&A』『地域包括ケアシステム参画の手引き(第2版)』もご活用ください。



2. OT参画実態調査のお礼

各市町村の地域支援事業へのOT参画状況を明らかにすることを目的に、1,741自治体ごと調査依頼をさせていただきました。979件のご回答をいただきました。士会事務局、選任者、ご回答いただきました皆様へ、ご協力に大変感謝いたします。結果につきましては各士会ごとフィードバックさせていただきます。



3. 作業療法士参画モデル事業 公募のお知らせ

第2期地域づくりに資する作業療法士参画モデル事業の公募が始まります。作業療法士が「地域づくり」関連の地域支援事業や地域での取り組みに参画することを応援します。詳しくは、4月頃に協会ホームページの会員向け情報＞地域社会振興関連＞地域包括ケアシステム関連をご参照ください。

グループワーク テーマ：士会マネジメント

今回、士会マネジメントのグループワークとして、市町村担当者の役割について発信を行いました。当会とは、規模や進行度合いと様々な違いがあり、大変参考になる機会となりました。その中でも、人材の確保という共通の課題があり、今後、どの士会どのように人材を確保・育成していくかということが課題になると感じました。他士会との情報共有を行いながら、当士会でも解決の方向へ向かっていきたいと思います。

編集後記

今回も各士会から会長や副会長といった方々が参加され、地域支援事業がOTにとって重要になるであろうことを改めて認識する機会となりました。各士会で担当者配置の進行具合や認識も違い、地域によって様々な状況である印象を受けました。当士会でも会員の皆様の協力を仰ぎ、地域で暮らし続けることが出来る石川県にしていけるよう、石川県にあった仕組みづくりや運営を考えていく必要があると感じました。

石川県士会 担当：市川